

人権教育だより

栃木県教育委員会事務局総務課人権教育室

【人権教育推進の取組】

本県では、平成14年度より栃木県人権教育基本方針に基づき、県内全ての学校全ての地域において人権教育を推進することとしています。以下に、今年度、関係課室で実施された取組を御紹介いたします。

◆総務課の取組◆

◇性暴力について考える研修会

県民生活部くらし安全安心課との共催でオンラインによる「性暴力について考える研修会」を開催しました。

県内全域から、小学校職員2名、中学校職員5名、高等学校職員12名、特別支援学校職員6名、教育委員会職員2名、計27名の方々に御参加いただき、性暴力についての正しい認識や未然防止策、児童生徒が被害に遭った場合の適切な対応について理解を深めることができました。

○日時 令和4(2022)年8月3日(水) 10:00～12:00 オンライン開催

○講師 武蔵野大学人間科学部
教授 藤森 和美 氏

○演題 「子どもの性暴力被害の実態と学校における対応について」

◇デートDVを考える研修会

とちぎ男女共同参画センターとの共催でオンラインによる「デートDVを考える研修会」を開催しました。

当日は、県内全域から、小学校職員2名、中学校職員2名、高等学校職員12名、特別支援学校職員5名、教育委員会職員4名の計25名の方々に御参加いただき、誰もが加害者にも被害者にもならないために、デートDVを身近な問題として捉え、デートDVに関する知識や被害者の支援方法について学ぶことができました。

○日時 令和4(2022)年8月3日(水) 13:15～15:15 オンライン開催

○講話 NPO法人レジリエンスこころのケア講座
ファシリテーター 栄田 千春 氏

○演題 「デートDVとモラルハラスメントについて」

◇児童虐待に対応するための研修会

8月29日、オンラインによる「児童虐待に対応するための研修会」を開催しました。当日は、県内全域から幼稚園・保育園職員134名、小・中学校職員95名、県立学校職員74名、国立・私立学校職員3名、内地留学生・教育委員会職員関係40名の計346名の方々に御参加いただきました。

講師の社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事、片倉 昭子氏による「子どもの虐待の現状と学校・家庭・地域・専門機関の連携」と題した講話等により、児童虐待の現状や関係機関との連携の在り方等について理解を深めることができました。参加者からは、「虐待の可能性のある保護者への接し方、寄り添い方等が分かりやすく、大変参考になりました。」「虐待(マルトリートメント)の実態が多種多様であることが改めてわかりました。だからこそ、個人ではなく組織で対応することが求められるのだろうと感じました。」「『地域』という言葉がキーワードであったように思います。地域の中で育つ子供像をイメージしながら支援に当たっていきたいと思います。」などの感想が寄せられました。

◇ 人権教育担当者スキルアップ研修

9月29日、県総合教育センターにおいて、人権教育担当者スキルアップ研修を開催しました。本研修は、市町・県教育委員会の指導主事、社会教育主事、人権教育行政担当者等を対象に、参加体験型学習をより効果的に展開するための実践的な知識・技能の習得やその向上を図ることを目的としています。当日は、小・中学校職員9名、市町教育委員会職員17名、県教育委員会職員19名の計45名の方々に御参加いただきました。

講師には、茨城県ユニセフ協会の方々をお招きし、「SDGsの視点に基づく人権教育の推進」のテーマのもと、参加体験型の学習をとおして、子供の人権問題に関する現状等について御指導いただきました。参加者からは、「いろいろな方の意見や考えを聞く時間が十分あり、自分の価値観を広げることができました。自分だけでは気付けなかった視点についても考えることができ、とてもよい研修だったと思います。」「ユニセフという団体は知っていたが、どのような活動をしているのかなどがわからなかったため、交流ができて良かった。様々な資料の展示等に触れることができてよかった。」等、様々な感想が寄せられました。参加者にとって学びの多い研修となったことがうかがわれました。



研修の様子

◇ 人権に関する作品コンクール表彰式

12月9日、県公館大会議室を会場に、「人権に関する作品コンクール表彰式」を開催しました。表彰式では、栃木県教育委員会阿久澤真理教育長から最優秀賞を受賞した18名への賞状及び副賞の授与が行われました。また、授与に続き、代表者による作文朗読やイラストの展示発表を行いました。作文・イラストの入賞作品は、「人権に関する文集『あすへのびる』一第42集一」に掲載し、2月下旬を目途に学校等への配布を予定しております。ぜひ御活用ください。



賞状授与の様子



受賞者の集合写真

◇ 人権教育研究推進事業（文部科学省委託事業）

(1) 人権教育総合推進地域事業

学校、家庭、地域社会が一体となった人権教育の総合的な研究を実施し、人権教育の一層の充実を図りました。

○指定期間 : 令和3(2021)年度～令和4(2022)年度

○指定地域 : 小山市美田中学校区

○研究テーマ : 一人ひとりが大切にされ、人権が尊重される地域づくり

○成果 : 地域における人権教育の充実、児童生徒の自己肯定感等の高揚

(2) 人権教育研究指定校事業

人権意識を培うための学校教育の在り方について、幅広い観点から実践的な研究を実施しました。

○指定期間 : 令和4(2022)年度

○指定校 : 益子町立益子小学校

○研究テーマ : 豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育

～互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成～

○成果 : 教職員や児童の人権意識の高揚、校内における人権教育推進体制の強化等。

◆ 義務教育課の取組 ◆

◇ 人権教育指導資料の作成

指導者の人権や人権問題についての理解を深めるとともに、人権感覚を磨き人権意識を高め、学校における人権教育の充実を図るための資料を作成しました。

1 資料作成のテーマ

直接的指導の充実を図るための基底的指導について

2 資料の内容

(1) 人権教育について

(2) 人権教育推進の具体策

(3) 基底的指導について

(4) 指導事例

3 その他

デジタルブック形式のため、タブレット等の端末から直接アクセスすることができます。

(令和5(2023)年3月 栃木県教育委員会のホームページに掲載予定)

◇ 内地留学生（宇都宮大学共同教育学部）による実践研究発表

令和4(2022)年度栃木県教育研究発表大会における人権教育部会において、前期内留学生による発表がオンライン形式で行われました。

人権尊重の視点に立った学校づくりのため、アサーショントレーニングや構成的グループ・エンカウンターの有効性について取り組まれ、基底的指導の充実や育てたい資質・能力につながる力の育成を図ることができました。

1 発表者

鹿沼市立加園小学校 宇賀神孝文 教諭

2 テーマ

「人権尊重の視点に立った人間関係づくり

～アサーショントレーニングと構成的グループエンカウンター～

◆高校教育課の取組◆

◇ 研究指定校の取組（黒磯南高等学校）

学校教育における人権教育の改善・充実を図るため、県立黒磯南高等学校が前年度に引き続き研究学校として指定されました。以下がその取組になります。

1 研究テーマ

多様性を擁護する社会参画者を育成する人権教育

2 主な取組

- (1) 現職教育
県教育委員会指導主事等による講話をとおして、教職員の資質向上を図った。
- (2) 人権講話等の開催
多様性、障害者、ヤングケアラー、情報モラル、デートDVなどをテーマとした講演会を開催した。
- (3) 公開授業の実施〔令和4(2022)年12月7日(水)〕
全校で公開授業を実施した。
※公開授業テーマ『「直接的指導」または「間接的指導」を取り入れた授業』
※〈授業実施者感想〉
 - 普段よりも人権に配慮しながら声かけを行った。普段の授業の中でも人権を意識しながら授業を行うことができると改めて感じた。今後も続けていきたい。
 - 人権教育は日々の授業で常に意識して取り組むものと再確認した。
- (4) 先進校視察・情報交換
福島県、茨城県、埼玉県、大阪府の高校と研究に関する内容について情報交換を実施した。
- (5) 人権だよりの発行
第1号：人権に関する作品コンクールについて
第2号：人権講話について
第3号：公開授業について
- (6) 人権に関するアンケートによる実態把握
年2回実施（7月と12月）し、人権や人権問題に関する生徒の認識や変容等について把握し、事業の点検評価の参考とする。

3 成果と課題

〈成果〉

- 生徒に人権意識の高まりが見られた。
 - 「人権」に対する関心が高まり、「多様性」に対しての認識が深まった。
- 教員の人権教育に対する認識に変化が見られた。
 - 人権教育は「全ての教科」で実践するものであるという認識をもつことができた。

〈課題〉

- 身近な人権課題についての認識をもとに、多様性を擁護する普遍的な人権意識の涵養を図る。
- 組織的な人権教育を継続していく。

◆特別支援教育室の取組◆

◇ 交流及び共同学習の推進

県立特別支援学校（16校）では、「特別支援学校の近隣の学校との交流活動」や「児童生徒の居住する地域の学校との交流活動」を計画的かつ組織的に行うことにより、障害のある幼児児童生徒の社会性や豊かな人間性の涵養に努めるとともに、障害のない幼児児童生徒との相互理解の促進を図っています。

今年度は、相手校と実施時期や方法を綿密に調整することで、感染症対策を行いながら多くの直接的な交流活動を実施することができました。また、ICT機器を活用したオンライン交流等の実施も増加しました。このような多様な体験活動によって、特別支援学校の幼児児童生徒の豊かな人間性を育むことにつながりました。

◆生涯学習課の取組（社会教育における取組）◆

◇ 人権教育指導者一般研修

生涯学習課では、様々な人権問題について正しい理解と認識を深め、地域社会において人権教育を推進していく指導者の育成を目的として、教育事務所単位の県内7か所（河内・上都賀・芳賀・下都賀・塩谷南那須・那須・安足地区）で人権教育指導者一般研修を開催しています。

「ふれあいじんけんフォーラム」

～塩谷南那須地区人権教育指導者一般研修～

塩谷南那須地区では、令和4(2022)年6月9日(木)に那珂川町小川総合福祉センターあじさいホールにおいて「ふれあいじんけんフォーラム」を開催しました。本年度は、人間が生きることと切り離せない「性」をテーマに、ジェンダーとは何か、男女共同参画社会とは何かという内容で人権講演会を実施しました。

◆研修内容◆

1 人権講演会

演題「人権としての性について考えよう」

講師 国立大学法人宇都宮大学共同教育学部 准教授 良 香織 氏

2 参加者の声

- 先生の話聞いて、性や人権に対する考え方や捉え方が少し変わりました。年頃の娘と5歳の息子がいるのですが、性の伝え方に悩んでいたのも先生の話参考させていただきます。
- このような機会がないと聞けない話なので大変勉強になりました。SOGIという用語を初めて知りました。多様性を受け入れていきたいと思います。
- デリケートでなかなか家庭でも踏み込みにくいテーマだと思いました。これから生きる子どもたち以上に、大人である私たちこそ積極的に「人権としての性」を理解する気持ちが大切だと思いました。
- 性のこと、多様性のことなどいろいろな考えが増えているので、家庭や学校でもなるべく最新の考え方にアップデートしていくことが必要だと思いました。
- 多くの学びがあり、自分自身の行動や言動について改めて考えることができました。2人の娘を育てています。子どもたちへの「性=人権」ができていないのではと考えさせられました。もっと人権を意識して、次の世代のために少しでも何か残せるよう行動していきたいです。



◆その他◆

ヒューマンフェスタとちぎ 2022

令和4(2022)年11月5日、とちぎ福祉プラザにて「ヒューマンフェスタ とちぎ 2022」が開催されました。

今年度は『とちぎから考えよう「自分らしく生きる社会」』をテーマとした講演やトークショーなどが実施されました。

アンケート結果より参加者のみなさんが人権尊重の理念について理解を深められたことがうかがえました。

来場されたみなさんには県立宇都宮青葉高等学園の生徒が心を込めて栽培した「人権の花」がプレゼントされました。「人権の花」には「人権が尊重された温かな雰囲気」がますます広がって欲しいとの願いが込められています。



人権トピックス

○ とちぎパートナーシップ宣誓制度

栃木県では、性的指向や性自認にかかわらず、誰もが自分らしく生きることのできる社会の実現のため、令和4(2022)年9月1日から「とちぎパートナーシップ宣誓制度」を導入しました。

本制度は、人生のパートナーとして互いに協力して継続的に生活を共にすることを宣誓したお二人（一方又は双方が性的マイノリティ）に対して、栃木県が宣誓書受領カードを交付する制度です。なお、婚姻制度とは異なり、法律上の効果が生じるものではありません。

○ G7大臣会合

令和5(2023)年6月24日(土)、25日(日)に日光市で本県では初めての国際会議であるG7男女共同参画・女性活躍担当大臣会合が開催されます。それに関連して、3月には男女共同参画・女性活躍をテーマにしたシンポジウム、5月にはG7各国の子どもたちが集う「こども未来サミット」の開催も予定されています。

○ 視聴覚教材の紹介

今年度県内公立学校から借用依頼が多かったDVD作品について紹介いたします。

- (1) タイトル：ホーム
- (2) 視聴時間：46分
- (3) 製作：茨城県、茨城県教育委員会
- (4) テーマ：部落差別（同和問題）、障害者、性の多様性、ネット、職場ハラスメント
- (5) 特徴：テーマごとに部分的な視聴が可能です。また、活用の手引やワークシートのデータも収録されています。
- (6) 問合せ先：栃木県教育委員会事務局総務課人権教育室 TEL028-623-3363